

会議等開催結果報告書

1. 会議名	令和6年度(2024)第3回出雲市介護保険運営協議会		
2. 開催日時	令和7年(2025)3月6日 木曜日 14:00～16:00		
3. 開催場所	出雲科学館 3階 多目的室		
4. 出席者	<委員> 飯國吉子委員、磯田洋平委員、伊藤智子委員、岩崎陽委員、岩崎洋子委員、大島俊介委員、金森功委員、嘉村正徳委員、川谷吉正委員、黒松基子委員、佐藤美也子委員、塩飽邦憲委員、須谷生男委員、新宮直行委員、高橋幸男委員、名越究委員、錦織和人委員、福場由紀子委員、深井綾子委員、布施礼子委員、(50音順)(20名) 欠席：嵐谷直美委員、石橋陽子委員、小林祥也委員、濱村美紀委員、村下伯委員(5名) <傍聴人> 0名 <事務局> 健康福祉部長、高齢者福祉課長、医療介護連携課長 ほか		
5. 会議等において検討された事項等	1 健康福祉部長あいさつ 2 議事 (1) 第9期計画に係る令和6年度の成果指標の暫定評価について 資料1 3 報告事項 (1) 第9期計画に基づく地域密着型介護サービス事業所再公募結果について 資料2 (2) 令和7年度介護人材の確保・定着に向けた事業計画(案)について 資料3 (3) 介護予防支援事業所の指定について 資料4 (4) 令和6年度出雲市認知症施策強化検討会実施状況② 資料5-1 出雲市認知症施策推進計画 資料5-2 4 会長あいさつ		
担当部署	健康福祉部高齢者福祉課、医療介護連携課	連絡先	0853-21-6212
会議録	別添のとおり		

令和 6 年度 (2024) 第 3 回出雲市介護保険運営協議会会議録（要旨）

1. 議事	
事務局	第 9 期計画に係る令和 6 年度の成果指標の暫定評価について資料 1
A 委員	運営推進会議はどのような委員が出席しているのか。行政も出ているか。経営状況など運営面にも踏み込んだ議論を行ってはどうか。また、外部評価の様式は国が定めるものか。市独自の項目も良かった。
会長	市から行政指導で評価を徹底していくことは事業所にとって負担となるが、アウトプットとして地域ケア会議などでもっと議論が深まるようお願いしたい。
B 委員	運営推進会議の内容は質を高めることを目的に、職員たちで議論し、テーマを設定して開催している。地域の評価も取り入れている。地域住民も積極的に会議に参加してもらっている。
A 委員	町内会長が充て職で参加している事業所もある。会議は回数でなく内容が重要と考える。
C 委員	人材確保について、どのサービス種別も近年は高齢化が進み、また若年層の採用が厳しいのが現状である。
D 委員	充足率における採用希望とは事業所側の希望数なのか。採用実績と自己都合退職数の差が増減しているが、業界全体としては人材が増えたのか、減ったのか。この充足率という成果指標は理解できにくい。
2. 報告事項	第 9 期計画に基づく地域密着型介護サービス事業所再公募結果について資料 2
	令和 7 年度介護人材の確保・定着に向けた事業計画（案）について資料 3
	介護予防支援事業所の指定について資料 4
	令和 6 年度出雲市認知症施策強化検討会実施状況②資料 5-1
	出雲市認知症施策推進計画資料 5-2
B 委員	認知症基本計画は認知の方の人権宣言である。誰もが認知症になり得る中で、認知症になった場合、いかに自分らしく暮らせるか。認知症は他人事ではない。一方、地域の方が運営推進会議や施設見学で来られる。自分が認知症になったらここでお世話になりたいと話されることがある。
E 委員	今回の報酬改定で全体的にプラス改定だが、物価高によるコスト増は改定額を超えており、トータルでは厳しい。また、居宅事業所において若い介護支援専門員が不足しており、30代はほとんどいない。若い活力が欲しいところである。

C 委員	様々な種別の事業を運営しているが、先ほどの委員からの意見と同様、報酬はアップしているが最低賃金が上がっていく中、人件費部分が膨れ、改定の恩恵を実感できないのが現状である。
会長	親族の件だが、医師から骨折という判断により地域包括ケア病棟に入院している。療養型病床であるため、部屋代を含めた支出は安かったが、退院後特養に入ると負担額が一挙に増加した。年金の範囲で賄っているが、介護サービスの利用負担は高く感じる。
F 委員	訪問介護で改定による増額部分は処遇改善であるが、これはすべて職員に給与として支出しなければならず、職員のためには良かったが、事業運営には使えないことから、ガソリン代の高騰分を事業所が負担している。遠方にも訪問するため市からの補助を受けているが、今年は雪が多かったため親戚宅へ避難し、サービス提供を数日間断られる事例があった。キャンセル料はもらえず資金計画に影響があった。その点、障がいサービスは安定しており、送迎サービスで出た利益を介護に回している現状。
会長	介護事業所が障がいサービスと兼業していることが結構ある。介護サービスほど報酬が絞られておらず余裕があると伺っている。
事務局	物価高騰について補正予算を要求したが、限られた財源の中、予算計上に至らなかった。県については、議会承認されれば物価高騰対策補助金が出る予定。
G 委員	県医師会が開催している在宅医療介護の委員として出ているが、保険者として資料に出てくるような支援をしている自治体は無い中で出雲市は県内トップランナーだと思っている。他自治体から参考になるとの意見を聞く。 事業者の要望を聞きながら改善し、進めていただきたい。
E 委員	条件不利地域への助成に居宅介護支援事業所が入っていないように思われる。日御碕の孤立時は助成いただけたので、対象事業種別の拡大を望む。
事務局	今回は訪問系のみということで、訪問介護、訪問リハビリ、訪問入浴の3つのサービスを対象としている。今後については通所系も含め、毎年要件を見直したいので、ご意見願う。居宅については国への要望を継続する。
D 委員	インフルは減っている。コロナは流行中。感染性胃腸炎は流行してきている。市内大規模急性期病床は満床に達しつつあり、医療入院を待ってもらったり予定手術を延期する病院も出てきている。逼迫に近い状況と聞いている。
事務局	運営推進会議の開催状況を市のホームページに掲載している。更新を予定している。正規職員の充足率の考え方については、わかりやすいよう改善を図っていく。 委員任期はひとまず3月末までであるが、再任を依頼する場合、引き続き承諾願う。